

〔団体の概要〕(N G O / N P O 用)

団 体 名	NPO 法人環境文明 2 1		
所在地	〒211 - 0006 川崎市中原区丸子通 1 - 665 - 201 TEL: 044 - 411 - 8455 FAX: 044 - 411 - 8977 E-mail: kanbun@neting.or.jp		
ホームページ	http://www.neting.or.jp/eco/kanbun/		
設立年月	1993 年 9 月 * 認証年月日 (法人団体のみ) 1999 年 10 月 20 日		
代表者	加藤 三郎	担当者	松尾 和光
組 織	スタッフ 9 名 (内 専従 1 名)		事務所 あり・ なし
	会員制度 (あり・ なし)	正会員 569 名 (内訳 : 個人 569 名 / 団体・法人 名) 賛助会員 120 名 (内訳 : 個人 32 名 / 団体・法人 88 名) その他会員 7 名 (学生会員)	
設立の経緯	当団体は、主要な環境問題が、経済、社会、ライフスタイルなど、いわば文明のあり方と密接に関係しているとの認識のもと、環境と文明の関係について幅広く調査研究し、わが国のみならず世界の環境の質の維持向上に資する新たな文明のあり方を探求することを目的として、平成 5 年 9 月に任意団体「21 世紀の環境と文明を考える会」として発足した。以降環境と文明の関係に関する調査研究、会報の発行、会員同士の交流会の開催、ワークショップの開催等の活動を行ってきた。NPO 法の施行に鑑み、NPO 法人化することとし、これを機に団体名を「環境文明 21」に改称。平成 11 年 10 月 20 日に神奈川県より NPO 法人 (特定非営利活動法人環境文明二十一) として認証された。		
団体の目的	本会は、21 世紀において文明社会が健全に存続するためには、大量生産・大量消費・大量廃棄を基調とする現代文明のあり方を根本から問い直し、環境負荷の少ない循環を基調とした社会を創造する必要があるとの観点から、環境問題に関する政策提言、調査研究、普及啓発、交流等に関する事業を行い、環境の保全に寄与することを目的とする。		
団体の活動 プロフィール	1993 年 9 月 1 日 発足。同年 10 月より会報『環境と文明』を毎月発行 1994 年 3 月 19 日 「環境と文明」に関する第 1 回ワークショップ (古河市) 1996 年 1 月 日米合同セミナー (ハワイ大学内) (以降、隔年で開催) 11 月 16 日 第 1 回全国交流大会 (川崎市) (以降、毎年 1 回開催) 1997 年 3 月 15 日 ワークショップ「21 世紀のライフスタイルを考えよう」(武蔵野市) 12 月 20 日 『地球市民の心と知恵』を出版 (中央法規出版) 1999 年 1 月 12 日 飲料自動販売機問題に関して条例モデルを発表 2000 年 6 月 4 日 シンポジウム「飲料自動販売機から見える環境問題」(渋谷) 12 月 N E C 環境アニュアルレポート作成支援業務 2001 年 6 月 9 日 他団体と「ストップ 温暖化 ! ファミリーパレード」を実施 (渋谷) 2002 年 1 月 11 日 持続可能な交通の実現に向けた 12 項目の提言を発表 (以上のほかにも、調査研究、政策提言、普及啓発活動を随時実施してきた。)		
財 政	活動事業費 (平成 13 年度)	20,055,488 円	

団体・企業名	NPO 法人 環境文明 21	担当者名 松尾和光
--------	----------------	-----------

〔政策提言の内容〕

* 政策分野・手段の番号は参考資料をもとにお書きください。

政策のテーマ	持続可能な交通の実現に向けた提言（11） 持続可能な環境保全型交通に関する普及啓発		
政策の分野	番号		温暖化防止対策に関する制度
政策の手段	番号		環境情報の収集及び提供
政策の目的			
地球温暖化や大気汚染、交通事故などの諸問題をかかえる持続可能でないクルマ社会—自動車に過度に依存した社会—を転換し、持続可能な交通を実現することを目的とする。			
提言を行うこととなった背景および現状の問題点			
OECD では、1994 年から「持続可能な環境保全型交通（Environmentally Sustainable Transportation: EST）」に関する議論を開始し、2001 年 5 月には野心的なガイドラインを公表しています。しかし、わが国は OECD 加盟国でありながら、この EST について国民に広く知られていません。よって、以下の点を求めます。			
政策の概要			
国際レベルで展開されている「持続可能な交通」に関する普及啓発と、その実現に向けた制度の整備を求めます。 ・ 政府は EST に関する国民への広報を積極的に進める。 ・ 多種多様な主体による各地域に適応した持続可能な交通を実現化するためのフォーラムの立ち上げを、情報、場、資金などの提供により補助する。フォーラムは、行政、経済界、学者・研究者、NGO 等が横断的に集まり、持続可能な交通のあり方について自由闊達な討議・検討を行うものとし、その情報を広く公開する。			

政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートをつけてください） 持続可能な環境保全型交通に関する普及啓発及びフォーラム立ち上げの補助を、環境省並びに国土交通省が関係諸機関や NPO の協力も得て行う。
政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください） 上記 参照。
政策の実施により期待される効果 持続可能な環境保全型交通に関する認識が高まることで、国民がそれを志向するようになる。やがては、この持続可能な環境保全型交通を実現するための制度整備へと進むことが期待できる。
パンフレット等添付資料名 ・環境文明 21、持続可能な交通の実現に向けた 12 項目の提言 ・柳下正治「OECD プロジェクト「持続可能な環境保全型交通」」「環境と文明ブックレット 6 持続可能な交通をめざして」